

報 告

第18回医学情報サービス研究大会参加記

田村 貴美江

2001年6月23・24日（土・日）四国・松山において、第18回医学情報サービス研究大会が開催されました。私は、中・四国ネットの協力会員として中途半端な参加をしましたが、印象などを報告させていただきます。

会場となりました愛媛県立医療技術短期大学は、松山市内から少しはなれた焼き物の里、砥部にあります。住宅地が迫ってきているとはいえまだ回りには稲田があり、学生さんたちによって催されたお茶会がしっかりと似合う静かで美しいところでした。18回目を迎えたこの大会が今回「初めて」だということがいくつかありました。まず海を渡って四国で開催されたこと。そして館種を超えた方々の協力を得ながら、実行委員長はじめ実行委員、協力員等病院図書室の会員が中心になって開催されたこと。21世紀を迎え最初の大会がこのような形で一步を踏み出したことも大変意義深いものがあると思います。そして実行委員長の人脈が功を奏したのか、四国という地理的なハンディキャップにもかかわらず遠い所は青森の方をはじめ、約160名近い参加者がいました。私は、初めての参加でしたが、大学図書館、病院図書室、臨床検査、看護職そして企業の方々が、同一場所で集う研究大会は他の大会とは一味違った雰囲気がありました。さらに今回は5テーマによる昼食をとりながらのラウンドテーブル・ディスカッションがあり、各テーブルとも時間いっぱい、熱心にディスカッションされたようです。

昨今、看護研究が盛んになり、看護婦さん達からの利用、要望も多くなっていますが、看護

職の方からの看護研究をすすめるにあたっての発表は、日々直面する問題が多く、病院図書室担当者としてどう支援していけるのか考えさせられるものでした。

今回もたくさんの企業の方から出展がありました。世はまさに電子ジャーナルへと移行していることを痛感し、図書室は変わるという印象を強く受けました。

今回の大会は Academic & Friendly をモットーに、手作りの会でした。大会の成功は、事務局長の吉見さんをはじめ、地元松山の実行委員の方々のたいへんな尽力の賜です。それに加えて大会2日目最後の日に晴れたこと。雨にたたられるこの大会、実行委員長の野原さんの挨拶は「…晴れています！」と喜びのことばで結ばれました。雨に降られて会場入りし、梅雨の晴れ間の太陽を背に会場を後にしました。

「終わりよければすべてよし、加えて天気よければすべてよし」とは事務局長吉見さんのことばです。実行委員の方々の無事終わった安堵の気持ちが伝わってきます。

皆様本当にお疲れさまでした。そしてはるばる四国へ来て大会を盛り上げて下さった皆様本当にありがとうございました。またどこかでお会いしましょう。

